

6.9.2 予測

1) 工事の実施

(1) 予測概要

調査の結果、調査範囲では哺乳類4種、両生類2種、爬虫類4種、鳥類30種、昆虫類21種、甲殻類9種、陸産貝類9種、クモ類1種、合計80種の重要な種の生息を確認した。

工事の実施に伴い、造成等の施工による一時的な影響として、土地の改変による個体の消失、建設機械の稼働並びに資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による生息環境の変化が考えられることから、これらが及ぼす重要な種の生息状況の変化を表-6.9.2(1)に示すとおり予測した。

表-6.9.2(1) 陸上動物に係る予測の概要 (工事の実施)

項目	内容
予測項目	重要な種の生息状況の変化
影響要因	造成等の施工による一時的な影響 建設機械の稼働 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行
予測地点・予測範囲	重要な種の分布及び生息環境と施工計画を考慮し、事業の実施による環境影響を的確に判断できる範囲として、調査範囲と同範囲とした。
予測対象時期	個々の重要な種の分布又は生息環境に係る環境影響を的確に把握できる時期とした。
予測手法	重要な種の事業実施区域周辺の利用状況と環境変化との関連から、既存の知見等を参考に生態的特性を踏まえて予測した。